

# 祇園祭

祇園祭は7月1日から始まり7月30日まで続きます。

中でもメインの行事は7月16日の宵山、17日の前祭の山鉦巡行、24日の後祭の山鉦巡行です。

私が小さかった頃、前祭は鉦が松原通という細い道を民家の屋根スレスレに通っていたのを覚えています。親戚の2階から手渡しで粽（ちまき）をもらっておりました。

その後何回かの巡行コースの変遷が有り、1961年に今の巡行コースとなりました。

今でも昔懐かしい細い道を鉦が屋根スレスレに通る場所は、帰り鉦が通る道です。祭が終わった後、御池の新町を左折し、新町通りを南に下り、各鉦町に帰る場所のみとなってしまうました。

（鉦の上で奏でるお囃子も帰り囃子となり、テンポの速いお囃子となります）

八坂神社の氏子である家内が今回の宵山散策の資料として、祇園祭の概要を書き記してくれましたので、ご一読頂ければ幸いです。

また 当日のルート地図は集合時お渡し致します。

## はじまり

貞観5年（863）、疫病の流行により、神泉苑（御池通神泉苑町東入門前町167）で初めて御霊会が行われる。（『三代実録』）

貞観11年（869）、京で疫病が流行した際、神泉苑に当時の国の数にちなんで66本の矛を建て、祇園社から神輿を送り、疫病退散を祈った「祇園御霊会」が祇園祭の起源と言われている。

応仁元年（1467） 応仁の乱により祇園祭中止

## 京の町衆により華麗な祭礼へ

明応9年（1500）、33年ぶりに祇園祭が復興し山鉦36基が出る際にくじをとる。

宝永5年（1708）京中の大火により橋弁慶山など多くの山鉦が罹災する

天明8年（1788）大火により函谷鉦・菊水鉦・凱旋船鉦など多くの山鉦が罹災する。

元治元年（1864）蛤御門の変による大火（どんどん焼け）で多くの山鉦が焼ける。

明治2年（1869）函谷鉦・占出山・保昌山・山伏山・孟宗山などが復興

昭和18年（1943）太平洋戦争のため、以降4年間山鉦の巡行が中止となる。

## 復興と興隆、祭りの戦後史

昭和22年（1947）戦後初めて長刀鉦・月鉦が建てられ長刀鉦のみ四条寺町まで往復巡行。神幸祭・還幸祭が復活。

昭和27年（1952）戦前通りに全山鉦（28基）が巡行。

昭和37年（1962）重要有形民俗文化財に指定

昭和41年（1966）7月24日の後祭り17日の前祭に合同される。

昭和54年（1979）重要無形民俗文化財、綾傘鉦が再興され、巡行に加わる。

昭和56年（1981）蟻螂山が再興され、巡行に加わる。  
昭和57年（1982）京都府・京都市の援助により、祇園祭山鉾染織品新調制度発足。  
平成21年（1992）「京都祇園祭の山鉾行事」がユネスコ無形文化遺産に登録。  
平成26年（2014）大船鉾が再興され巡行に加わる。後祭り巡行の復活  
令和元年（2019）鷹山が唐櫃巡行の形で巡行に参加。

## 前祭

四条通・・・長刀鉾 函谷鉾 月鉾 郭巨山 四条綾鉾  
室町通り・・・山伏山 菊水鉾 鶏鉾 白樂天山  
新町通り・・・放下鉾 船鉾 岩戸山  
東洞院通り・・・保昌山  
仏光寺通り・・・木賊山  
綾小路通り・・・綾傘鉾 芦刈山 伯牙山  
錦小路通・・・占出山 霰天神山  
西洞院通り・・・蟻螂山  
油小路通り・・・油天神山 太子山  
烏丸通通り・・・孟宗山

## 長刀鉾

鉾1番のくじ取らず、唯一、生稚児が2人の禿を従えて乗っています。  
見送りの「旭日鳳凰」は鉾町の近くに暮らしていた伊藤若冲生誕300年を記念して近年新調された綴れ織り。

## 鶏鉾

鉾頭の三角形の中の円形は鶏卵をあらわすといわれている。胴懸は「草花文様」インド絨毯を使用、見送りは16世紀ベルギー絨毯綴錦でトロイの皇子が妻子に別れを告げている図。

## 月鉾

全長重量ともに最大規模草、鉾頭は新月、天王座に月読尊を祭っている。屋根裏には丸山応挙の「金地彩色草花図」が描かれている。破風には左甚五郎の白兔がいます。16日の夜日和神楽が四条通を練り歩く。

## 菊水鉾

元治（1864）の蛤御門の変の兵火で焼失、焼け残った懸装具・胴懸・見送りなどは隣の山伏山に寄贈した。昭和27年に菊水鉾町に住む財を成した松本元治氏が報恩感謝の証にと再建を独力で図った。

各流派が会所でお茶席を開く。金剛流の能楽堂が取り壊されるまで能楽堂で開かれていた。茶菓は稚児人形にちなんだ和菓子 したたり（黒糖を使った琥珀寒 で亀廣永（高倉通蛸薬師上がる

ウイングス京都の裏手)の銘菓です。お皿は毎年色が変わり持ち帰れます(当日券¥2000)。

## 山伏山

ご神体は平安時代の高僧浄蔵貴所。正式な山伏装束で大峰入りする姿を現している。巡業の数日前に聖護院本山の山伏の巡拝、八坂神社からの清祓が行われる。前祭で護摩供養が有るなど、神仏分離以前の形式を残すのが特徴。日本大震災、熊本地震の支援も継続、被災者が巡行に参加する。

## 放下鉾

見送りは皆川泰三によるローケツ染「バグダッド」

## 函谷鉾

鉾2番のくじ取らず、重要文化財の前懸、16世紀ベルギー製毛綴錦「イサクに水を供するリベカ」が有名。一昨年、天井幕「長寿をもたらす夜明けの吉兆鶴」を新調。

各鉾町の会所ではご神体をお祀りし、胴懸や前懸、見送りなどを展示している。また粽やお守りなどの授与品をいただいたり、グッズ品(手ぬぐいや扇子等々)の販売をしており、購入すると鉾に上がらせてもらえる(但し、女子は会所までしか入れてもらえない(鉾に上がれない)鉾もある)

会所では子供たちが「明日は出ません今明晩限り・・・」と歌を歌って蠟燭の献上をお願いしているところもある。

宵山は別名「屏風祭」と呼ばれます。山鉾町の旧家や商家が所有の屏風等を飾って見せます、昔は多くの町家で見られましたが昨今は町屋もなくなり呉服商の衰退とともにほとんどなくなりました(特に四条通より北の室町通り、新町通は無くなりました)。現在は四条通より南の方(京都駅に向かう)に少し見ることが出来ます、

期間限定の御朱印が各鉾町で頂けます。

## 今回の見学予定コース

長刀鉾 → 鶏鉾 → 月鉾 → 菊水鉾 → 山伏山 → ウイングス京都

### 長刀鉾

四条通りを渡り高倉通りを綾小路まで下る

### 鶏鉾

室町通りを四条通まで上がる。四条通を西に行く

### 月鉾

四条通を新町通りまで西に行き、四条通りを渡り室町通りまで東に、室町通りを上がる

### 菊水鉾

室町通りを上がっていく

### 山伏山

室町通りを蛸薬師通まで上がり、蛸薬師通を南に行く。

烏丸通を渡り蛸薬師通りを東洞院通りまで東へ、東洞院通りを南へ

### ウイングス京都

### 歩行者規制

歩行者の一方通行が行われます。

東（八坂神社方向）

西

上がるは北に行く

下がるは南に行く（京都駅方向）

四条通り・・・左側通行（長刀鉾 函谷鉾 月鉾町 等）

室町通り・・・北行き一方通行

新町通り・・・南行き一方通行

錦通り・・・室町通りより東は東行

室町通りより西は西行

蛸薬師通り・・・室町通りより東は東行

室町通りより西は西行